

社協・生活支援まちづくり Report

(第2号)

2014(平成26)年10月20日 宮崎県社会福祉協議会

第1回推進会議から約2か月が経過し、「社協・生活支援まちづくり強化モデル事業」実施社協(以下「モデル実施社協」という。)では、様々な取組が始まっています。

こうした中、県社協では9月に各モデル実施社協を訪問。

どのモデル実施社協にも共通するのは、職員間で事業目的の共有化を図りながら、特に制度の狭間にある生活課題に着目した「個別支援」の強化をはじめ、地域の特性に応じた「生活支援の仕組みづくり」、「居場所づくり」にチャレンジする姿でした。

今号では、「動き始めたプロジェクト～モデル実施社協の具体的な取組～」について御紹介します。

➤ やっちゃんね～ “モデル事業実施社協における具体的な取組”

《都城市社協高崎支所》

● “個別支援に真正面から向き合う”

都城市社協高崎支所では、モデル事業をスタートさせてから生活福祉資金貸付をはじめ、高齢者虐待、ゴミ屋敷の問題など、実に様々な相談に向き合っています。地域の民生委員から相談されたり、本人からの相談を受け止める社協職員は、相談者のもとに足を運び、どのような生活状況であるかを細目に把握しながら、社協としての個別支援の方法を模索していました。

病気や障がい、不登校、経済的困窮、就労など、家庭内に多くの問題を抱えているケースも多く、社協職員が個別支援に真正面から向き合っている姿がとても印象的でした。

● 地域課題の把握は“多様な関係者の集い”から

保育園、小学校、中学校、地域包括支援センター・居宅介護支援事業等との意見交換会等を実施する中で、地域の生活課題の把握に努め、それをもとにした地域での新たな生活支援の仕組みづくりについて検討を始めています。

● “拠点づくりから就労支援へ” 地域生活支援の取組

地域にある介護予防拠点施設を活用し、コミュニティカフェ「さわやかサロン」を開催し、住民同士のふれあいや居場所づくり、介護や福祉に関するミニ講話等を行っています。

今後はこの「さわやかサロン」を活用し、ボランティア団体等と協力しながら、一般就労に馴染まない方にカフェでのお茶出しをしてもらうなど、就労訓練の場所としても活動を広げていく予定です。



(「さわやかサロン」の漬物バイキング)

《高鍋町社協》

● 漏れない相談支援体制 “キーワードは「総合化」・「包括化」”

高鍋町社協では、社協が持つ相談支援部門（総合相談事業、地域包括支援センター、障がい者基幹相談センター・居宅介護支援事業等）を活かし、近い将来、役場敷地内にこれらの相談事業をワンストップ相談窓口として設置すべく調整を開始しています。また、家庭内の複合的な生活課題に対し、総合的・包括的に対処するため、相談支援部門における調整役（コーディネーター）を配置し、漏れない相談支援の体制整備を計画しています。

● 子どもの学習支援 “サポート&スタディ「社協塾」”

低所得世帯の子どもの学習支援をする「社協塾」の取組も開始。参加者募集のためのチラシを作成し、町内の各自治公民館及び各学校に配布するとともに、学習支援ボランティアとして活動していただく町民を募集するなど、地域ぐるみで子どもの成長をサポートする体制づくりを行っています。

● 個別支援の展開 “さらに一歩踏み込んだ支援を”

また、モデル事業の指定をきっかけとして、従来行ってきた個別支援を見つめ直し、さらに一歩踏み込んだ個別支援の強化に努めています。

以下にその典型例である事例をご紹介します。

【事例】

● 生活状況

A氏は一人暮らしの女性（以前は弟と二人暮らし）。年金生活ですが、頻繁にタクシーで買い物に行くため、1か月の収支のバランスが成り立っておらず、家の中はゴミが散乱し、庭の状態も長年放置しており荒れ放題でした。また、A氏はこだわりが強く、他人が家に上がることを拒否する方でした。

● 支援経過

これまで社協としては、小口資金の貸付で関わりを持っていました。その他、地域包括支援センター、基幹相談支援センターもそれぞれ関わりを持っていましたが、生活環境（ゴミ屋敷）の改善や地域とのつながりの希薄という大きな課題を気かけながらも、積極的な関わりをもった支援ができていない状況でした。

しかし今回、A氏との話し合いや自治公民館長を中心に地域住民、民生委員、関係機関との話し合いの場を設け、一歩踏み込んだ支援に向けて社協が動きました。まずは、近所からの苦情も出ていたため、長年放置されていた庭木の剪定を地域住民と協力して行いました。

これをきっかけに、今後も社協職員との信頼関係づくりを深めながら、家の中の衛生状態の改善を地域住民と一緒に取り組むとともに近隣住民との関係づくりにも目を向け、関係機関と協力しながら支援を行っています。



（地域住民と取り組んだ支援の様子）

《日之影町社協》

● “地域はアイデアの宝箱” ～ニーズ把握と地域生活支援の仕組みづくり

日之影町社協では、地域住民のニーズを、地域住民が参加して支援する取組として、「あなたの望み叶えます」や「お助け2860」、「福祉人材バンク」等を行っています。

・「あなたの望み叶えます」

⇒ 一人暮らし高齢者を対象にニーズを事前調査して、「県下一斉ボランティアの日」に災害ボランティアセンター運営の訓練も兼ねて、町民にボランティアとして参加してもらい、一人暮らしの高齢者の望み（ゴミ出し、障子の張替え、誕生日のお祝い、畑仕事の手伝い等）を叶える

という取組

•「お助け2860」

⇒ 交通手段がなく、地理的条件や経済的な理由から交通機関を利用することが困難な高齢者等を対象とした、買い物、役場の用事、公共料金の支払い等の代行サービスや移送サービスを実施する取組

•「福祉人材バンク」

⇒ 高齢者等が長年培ってきた知恵、技能、意欲などを積極的に活用し、自らの生きがいの充実を図るとともに、活力ある地域社会づくりを進めるため、「趣味、健康」「スポーツ」「生活」「音楽」「子ども・教育」「文化・工芸」などの分野で参加協力したい個人・団体の登録を行い、活用したい人とのマッチングを行う取組

●これぞネットワークの構築“テーマ別の多様な連携の場づくり”

サロンボランティアや電話で安否確認をするボランティアなど、ボランティア別の連絡会議を開催することで「住民のニーズ把握」が容易になるとともに、行政、地域包括支援センター、ケアマネジャー、社会福祉施設、民生委員児童委員など関係機関とのネットワークを構築して「生活困窮者支援」、「介護予防の拠点づくり」、「災害時要援護者避難支援」といったテーマ別連絡会議を開催しています。具体的なテーマを掲げ、多様な関係者とのネットワーク構築を図り、かつ効率的な運営をしています。

●社協でできる・社協だからできる！“就労支援から生活支援”の展開

日之影町社協でも、総合相談・生活支援に重点を置いた個別支援の強化を図っています。以下の事例は、社協が持っている資源を最大限に活用した「就労支援」と、それをきっかけにした「生活支援」の一つのカタチを示しています。

【事例】

●生活状況

B氏（男性）・父・弟の三世帯（家庭内では、弟が実権を握っており、父の年金等も管理を行っている）。B氏は厚生年金を受給し、主に父親の介護をしています。近隣住民からの借金も含め、繰り返し負債を抱えている状況でした。家に風呂があっても入らず、洗濯もしていないため、衛生面でも不安がある方でした。

●支援経過

近所の方からの情報をもとに地域包括支援センターから社協に連絡が入りました。社協がB氏に連絡を取り、話をすると「働いて収入を増やしたい」との思いがあることが分かりました。そこで、社協ではまず福祉人材バンクに登録してもらい、父親の介護が空いた時間に低額な賃金で社協の公用車の洗車や周囲の草刈りを行ってもらっています。そして作業後は、社協内にある風呂に入ってもらおうようにしました。また、金銭管理についても用途が不明なところがあったため、お金を使った際はレシートを保管してもらい、社協で家計指導も同時に行っています。

B氏にとっても、社協での働き方が生きがいにもつながってきており、少しずつ服装などの身だしなみもよくなりました。

日之影町では本人に寄り添い、継続的な関わりを持ちながら自立に近づける実践を展開しています。



（公用車の洗車の様子）

～第2回推進会議を開催し、次の展開へ！～

10月24日（金）に第2回推進会議を開催します。内容は、各モデル事業実施社協における「個別支援の事例検討」から、個人を支える地域をつくるための「地域支援計画の作成」、「アセスメント様式等の検討」など、個別支援から地域づくりに向けた研究協議を行います。

各市町村社協にも平成26年9月16日付文書にて案内しておりますので、是非御出席ください！ 必見です！！